

(別添 4)

宇検村 1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

予測困難な時代で先行きが不透明な時代を生き抜くためには、生涯にわたって学び続ける「生きる力」が求められている。また、現代社会におけるデジタル化、オンライン化が大きく進展しているなか、これからの学校は、ICTを最大限活用することで「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させていくことが求められている。

個別最適な学びでは、児童生徒のペース、方法、理解度、興味関心も少しずつ異なり、児童生徒を誰ひとり取り残さない納得するやり方で進めていく。

また一人で学ぶには時間的な制約があり、協働的な学びが必要となり、まわりとの対話やクラウド上でみんなの考えを参照し、感化されるといったことが想定される。

本村では、これまで以上に1人1台端末やクラウド環境下での個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、児童生徒が主体的に学び、児童生徒が対話的に学ぶ、児童生徒の資質・能力の育成につなげていくことを目指す。

2. GIGA第1期の総括

コロナ禍において、休校時の中オンライン授業への取り組みや持ち帰りを通して、端末の利活用が一定程度進むこととなった。またワード・パワーポイントなどクラウドツールやチームズ、ドライブを利用した校内での資料の共有や情報共有する仕組みも一定程度定着したほか、他校との交流事業におけるZoomといったビデオ会議ツールの利活用も広がっている。

一方で、学校間の利活用の差や学年間での利活用の差が出てきている。学習の基盤として「情報活用能力の育成」には、1人1台端末を活用した実践が不可欠であることを理解したうえで、校務や研修での利活用を十分に体験し、授業等で実践が広がっていくことが必要とされている。

3. 1人1台端末の利活用方策

各校の教員がICT活用の目的を理解し、ICT活用指導力を向上できるよう、ICT活用に関する研修を計画的に実施する。

端末の家庭への持ち帰りを日常化し、学習者用デジタル教科書、授業支援ソフトウェア等を校内及び家庭学習で活用する。また、課題解決に向けて論理的に思考する力を育成するため、プログラミング教材を活用する。

児童生徒一人一人が自分で調べたり、考えをまとめ、発表・表現したりする

場面などにおいて、自身の学びを広げていくために、1人1台端末をフル活用する。

児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む非同期型の学びを展開し、個別最適・協働的な学びの一層の充実を目指す。

学びの保障のために、端末が破損した場合でも、予備機の運用及び速やかな修繕を実施する体制を構築し、1人1台端末環境を維持する。

1人1台端末によって、教師と子どもがつながり、子どもと子ども同士がつながることで児童生徒の学びに伴走する適切な資料提示や学習状況のモニタリングを通して、一人一人の状況に応じた学びを支援し保障する。